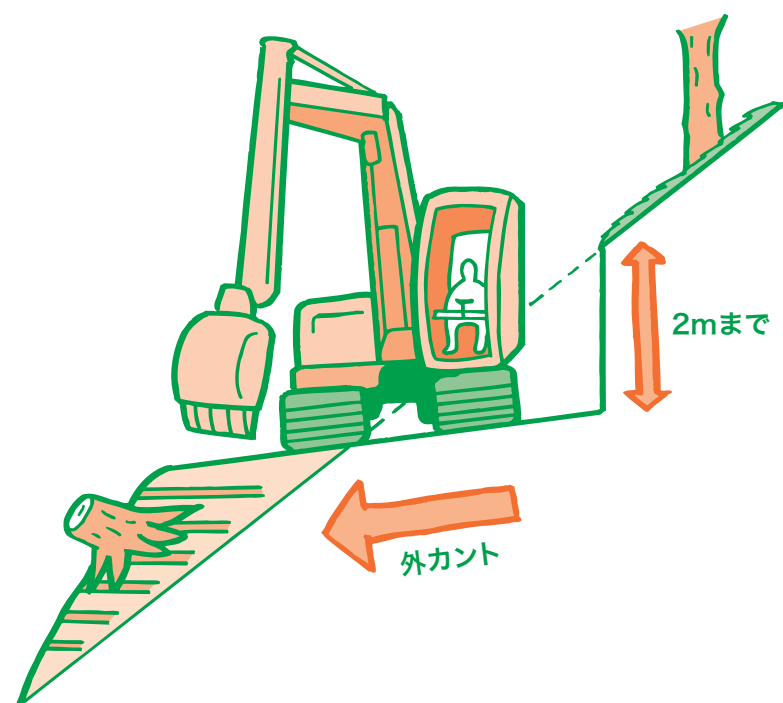


5. 切土・盛土と法面の処理

斜面に道や土場を作ると、どうしても崩壊を引き起こす危険を高めてしまいます。それを避けるには、施工の時にできるだけ切土・盛土の量を抑えるとともに、しっかりした工法で切土面、盛土部分を安定させましょう。

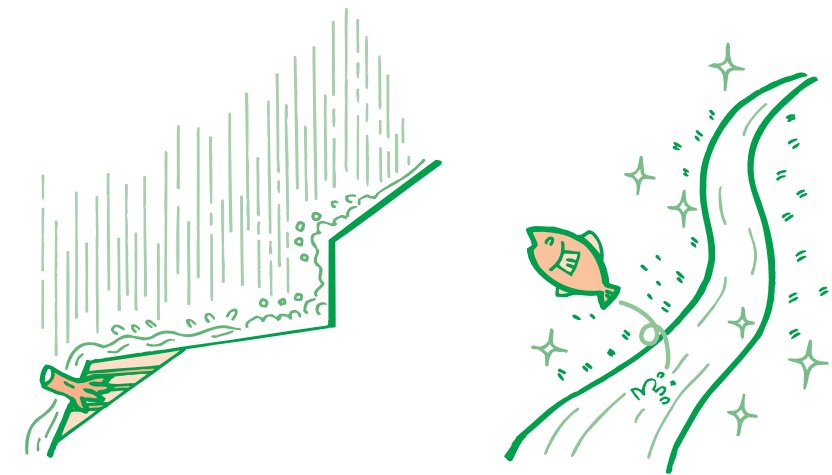
- 切土高は2mまでを基本とします。
- 切土・盛土を抑えるには、自然の地形に合わせたルートを取ることと、道幅を最小限にとどめることが肝心です。
- 盛土はしっかり締め固め、盛土の上を車両が走れるようにするとともに、法面の土砂が崩れないようにします。
- 表土ブロック積み工法の考え方を取り入れ、崩れそうな場所は丸太組みや石、根株を用いて押さえます。
- 土工量の多いヘアピンカーブは、傾斜が緩やかで、地盤の安定した場所を選んで作ります。
- スイッチバックは、ヘアピンカーブより土工量が少なく済みます。しかし、使い勝手は悪くなり、またむやみに路網密度が高くなるように注意が必要です。



6. 路面の保護と排水の処理

土砂の流出や崩壊が起こるのは、台風などで大雨になった時です。ですから、大雨の時の水の流れを予想して、それに耐えられる道を作りましょう。

- 路面に水が集中して流れ下らないよう、外カントにしたり、横断溝を入れたりすることで、路面の水がこまめに斜面に排水されるようにします。
- 地形を利用して、20m以内を目安に上り坂と下り坂を切り替え、水が路面を長く流れないようにします。
- 路面からの排水箇所が洗い流され、そこから崩れないようにするためには、石や根株を利用して排水箇所を補強します。



7. 谷川横断箇所の処理

道が谷川を横断するところは、大雨の時に増水するだけでなく、土石、流木が流れてくることを予想して、それに耐えられる作りにします。

- 暗渠を使う場合は、すぐにつまらないよう十分な大きさのものを用品ます。受け口の土砂だめも十分な大きさとしします。
- 洗い越しでは、石組み、木組みなどを用いて路面をしっかりと安定させます。